

常磐新報  
 定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元  
 郵税 五厘 印刷料 五厘  
 休刊日 日曜大祭 福島縣石城郡平町鍛冶町十一  
 印刷所 本報印刷部 印刷所 本報印刷部  
 電話 九番 一三九番  
 發行所 福島縣石城郡平町長崎町廿五番地  
 常磐新報社  
 川崎文治 編輯人  
 三月三日 刊

**眞に是れ鬼に金棒!**  
 耐火耐震耐久力の絶大なる  
 日本コンクリート鐵網  
 拔群優秀なる斯界の權威  
 磐城セメントを推奨す  
 最も經濟的に然も超越せる無比の良材  
 (施工説明書を進呈致します)  
 特約代理店 平町五丁目  
 和洋銅鐵  
 金物問屋 **久釜屋商店**  
 電話 九番 一三九番

**謹啓**  
 貴下益々御清適之段邦家の爲め慶賀至極に奉存候陳者拙者儀今般千葉地方裁判所判事を辭し多年深厚なる恩顧に浴したる當地に於て一般民間の法律機關として左記の場所に辯護士の業務を開き赤誠以て其天職を果すへき事を誓へ民事其他一般法律事務の依囑に應じ迅速且つ簡便に處理可致候間御後援被成下度此段謹告仕候 敬白

福島縣石城郡平町字檜樋小路二拾四番地  
 辯護士 **門傳清吾**  
 (電話 二四四番)

**寄書**  
 政治の運用に國民の監督  
 (二)  
 政界通人  
 是等の行つまれる舊勢力に對し從來餘り有力でなかつた政黨が社會に於て働く勢力を増大しつゝあるが時代の變遷を遺憾なく表示してゐる政黨政治は我國民の一般に要求するところであるが然し如何に我々が要求せる政黨政治が實現せられても決して有頂天になつてはいかぬ我々國民は更に重大なる責務がある事を考へねばならぬ中央政治即ち政黨

一冊の代金で御希望通りな**五冊の雑誌**が**自由**に讀める  
 平町長崎町三五  
**川崎回文庫**  
 (市込次第規則書進呈)  
 移轉急告  
 美味で評判の**遠藤パン**  
 (有聲座西隣)

**御挨拶**  
 私共今回事業により磐城新聞社を連袂辭退する事と相成申候  
 就ては来る十五日より日刊磐城新報を發行する事と致し目下準備中に之有候につき前同様將來とも御聲援と御指導を御願申上度略儀紙上を以て御通知旁々御願まで如斯に御座候  
 三月一日 早々  
 蓮沼龍輔  
 坂本茂雄  
 永久保照雄  
 比佐邦子  
 平町堂の前一番地  
 電話呼出(五四二)

政治の首腦者が國家の政治を利用して自黨の勢力擴張を計り而して中央政治をして所謂同黨異伐に陥らしめこれが爲には正義を無視しやすし傾きがあるから我々は政黨政治をして最も完全に進展せしむる爲めには社會的に中央政治を監督せなければならぬ苟くも立憲政治である以上は、政黨政治でなくとも地方民は政治の監督の任に當らなければならぬと思ふ、然るに從來の地方民は中央政治の種々な手段に翻弄され唯目前の利害に左右せられるもので中央政治をして益々不正を行はしむる餘地を興へてゐた

**和久井**  
 漆器指物  
 平町一丁目  
 電話 四〇五番

のであるが今後は國家全体の立場より地方問題のみに没頭することなく中央政治を監督することを忘れてはならぬ殊に現内閣は政黨政治として最も有力なものであるから我々は出来る限り彼等政黨員をして國家のために活躍せしめる餘地を充分に與へると共に地方に於ては綱紀の振肅を計り政黨をして有意義なる發達をなさしむるべく此際細心の監督をなすことは我々國民刻下の責務であると思ふ

**丸登式株店**  
 平町田町 電話 三三三番  
 川添房二郎

**株式買賣中値**  
 電話に金融 致し

銘格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五三・五
平銀行	五〇〇	六八・〇
同 新	權利	四・三
磐城銀行	一三・五	一〇・五
磐城實業	五〇〇	四二・〇
磐城實新	三〇〇	二八・〇
田村實銀	一三・五	一一・五
四倉銀行	一七・五	一七・五
農工銀行	二〇〇	二五・〇
同 新	一五・〇	一九・〇
百七銀行	五〇〇	五二・五
同 新	一三・五	一四・五
七七銀行	一三・五	九・八
郡山電氣	五〇〇	四七・〇
同 新	二五・〇	二二・五
只見川電	一一・五	七・五
植田水電	一一・五	一六・五
二本松電	一一・五	一五・〇
磐城建物	一一・五	一六・〇
磐城製菓	二〇〇	二五・〇
不信託	五〇〇	二〇・〇
磐城勸業	一一・五	一一・五
植田物産	三〇〇	二六・五
平製氷	二五・〇	一八・〇
好間軌道	五〇〇	二五・〇
入山新	三三・五	一七・〇
小田炭礦	二五・〇	一七・〇
同 新	五〇〇	四一・〇
磐城炭礦	二二・五	一八・〇
同 新	五〇〇	六三・五
同 新	三三・〇	四三・〇
平運送	一一・五	六・五

平町田町 電話 三三三番  
 丸登式株店  
 川添房二郎

# 官途を退いて 辯護士を開業した

## 門傳氏語る

### 公明正大な立場を保つ

門傳清吾氏が官途を退き平町才越小路元市原病院跡に辯護士を開業した事は既記の如くであるが同氏は明治大學法科の出身であつて先頃逝去した鈴木幸之助氏と同窓の關係上同氏を護りて同事務所の法律事務一切を擔當して居たが先年判例試験に及第し千葉地方裁判所の司法官候補に就任同考査に合格判事に昇進するに至り明晰なる頭腦と發洩たる手腕とを縦横に揮ひ大い官界を游泳する意圖を有して居た處友人知己の切實なる懇請を容れて意を決する處あり此程辭職して愈々辯護士を開業する事となつたのである、昨日の香新らしい看板の掲げられた同氏の事務所を訪れば悠容迫らない態度で「開業早々なものですから此通りです」と指し示す

## 同窓の

### 現在の

平町には十人の辯護士が居るけれども場所の割に多いと云ふ事は結構な事多ければ多い程仕事に熱心なり慎重になつて行くつまり競争は進歩の母であつて一段の向上を見る上に誠に喜ぶべきである、又當地は事件が常に多いから辯護士はいくら多くなつても

## 懇請を

### 困難な

様な事はあるまい殊に有難い事に自分には友人や知己が頗る親切で陰に陽に援助して呉れるから遣つて行くのにも心強さを感じて居る

## 懇請を

### 平營林署が

## 懇請を

### 殖林に努力

今月から來月に掛けて一般の造林季節に這入る爲め平營林署にては杉、松、樅等の殖林地約三百五十町歩雜木の自然造林約二百二十町歩に亘り殖林する由

## 洋風の

### 櫻花と共に

## 物云ふ花

### 花見衣を調達

花の候平町には勸業博覽會を始め他の大きな催しが種々開かるべきは既記の如く



寒さが明たら  
ヒフの手入れ (上)

寒が明けたら吹く風までが春めいてきました。冬の寒氣にちびこまつてゐた生物の總てがぐんぐんのびるやうに、この春先は人間の皮膚に手入れをする一番よい時期で手當一つでつや／＼と美しくなります。ちようどサルスベリの木が皮がむけてキレイな眞皮が現れて來るやうに人の肌もなめらかなくなるのです。人間の皮膚は非常に敏感で少しの寒さや暖かさにすぐいぢけた

くであるが藝妓屋組合では松ヶ岡の櫻花と共に物云ふ花も大いに紹介しやうとのことで其時に大小藝妓を飾るべき花見衣裳の調達を急いで居る

## 入學試験問題の方針

### 西牧警中教諭語る

本縣下各中等學校の入學試験は、日誌の間に迫り各小學校兒童の入學希望者は

## 白熱化

### した準備に

毎日放課後二時間位を勉強し電燈のともる薄暮に歸宅するやうな状態でこれが受持教師も又必死の努力を續けてゐるやうな状態であるが尙ほ入學試験

## 問題に

### 就いて西牧

警中教諭は語る「今年の私の學校は準備教育を受けた爲めに入學出來たといふやうな結果を來すことを避くるために六年間の義務教育を受けた者が解釋し得る問題を課する方針で例へば

## 算術に

### 於ては思考

力、算術的國語力、算術の常識、計算力を試みる問題

## 婦人農事終了

石城郡警備婦人農事講習會終了式は一日午後一時より同村小學校に於て舉行したが終了生約五十名である

## 大火傷を負ひ

### 幼兒が惨死

石城郡好間村大字上好間小田炭礦坑夫勉三女佐藤とみ(七)は去る廿八日午後二時頃自宅爐端にて衣服の裾に火が燃れ移り下腹部に大火傷を負ひ一昨一日遂に死亡した

## 前途を悲觀し

### 青年の家出

石城郡湯本町入山炭礦坑夫傳三長男佐藤傳右衛門(七)は日頃前途を悲觀して居たが廿八日死出の旅につく云々との遺書を殘して無断家出したので一日平署に取押へ方願出た

## 戦く家人を

## 尻眼に掛けて

### 悠々大金窃取

一日午前二時頃石城郡植田町本町文房具商小宮山皆吉方の裏戸を破つて覆面の賊忍び入つたことを主人皆吉が発見したが恐ろしさに戦いてゐる間に賊はたんのすの中からいふ／＼現金百五十餘

## 不平受付

### 投書歓迎

ゴミの仕末、こちらは田町の或病院の看護婦ですけれども今日はゴミを氣麗に取つて行くかと思つて居たらゴミ取り屋の持つて行き易く炭だはらにつめて置くにさらいもせず箱の中に半分も残して行きましたあれではすぐに一杯になりますからどうぞ係の方からゴミ取りに注意を願ひます

### (田町の看護婦より)

伏見平町長の答、各方面からその様な御注意が置いた次第ですが更に係の者から嚴重監督せしめる様致します

## 常磐片々

平町の藝妓が櫻花と妍を競ふ爲めに花見衣を調達、其實据模様の座敷着は勿体ないからどの遺り繰り算段不景氣は何處迄祟る

前途を悲觀し自殺するとして家出した青年がある、生きて居れば殺されるとも思つたものか、サテハ先見の明があり過ぎる

家人を尻眼に掛けて百五十圓を盗みだした窃盜犯、コイツが大膽でなく震えて居た家人が餘り程つ憶病者

## 仙台から

枕をそばたて、聞けば吹雪はさく／＼と雨戸を打つて居り、その元氣も失せてしまふばかり降りしきる雪を望んで居り、吹雪は九時頃になつて降り止んだので急に元氣付いて宿を飛び出しました

途中雪煙のうづまく中をいさましく突切つて師團へと向ひました、某中尉に案内され營内の各所を見せられた、炊事場、靴工場、縫工場、炊事場の男の手で巧みに居るのを見てほんどうに感服してしまひました、兵士の禮儀正しい事等誠に氣持よく感じました、某中尉

## 募集

### 文藝其他投稿

に戦争戦闘に關するくわしい話を、酒保で蓄音機等々ながらわいしく書かすまじました、それから少しへた、つた天守閣へとかげ足で案内者について行きました雪が一つおぼろの上つて行きました天守閣には大鷲が翼をひろげて大空に飛去らんとする銅像が空中高くそびへて居りました、此は彼の日清戦争凱旋の記念像だそう、此處からは仙台市が一目に見つけます、山を降り中尉に別れを告げ仙台驛に急ぎ暫時停車場前で土産の汽車で森の都に別れを告げて平驛へと汽車は走りまじりました

## 酒代を要求

### 八十餘名結束

石城郡四倉町漁夫八十餘名は一日午前二時より同盟休業を爲し廢止された酒代の復活運動を起した、此の運動は小名濱町漁夫の歩合値上運動に刺戟されたものである

## 公人私人

遠藤トミ子(遠藤平兵衛翁夫人) 病氣中であつたが今曉四時死去した爲め五日性源寺にて葬儀を執行する

長) 礦毒問題や糞尿問題其他昨今連日の様に相次ぐ陳情責めにホト／＼平向の体

出生  
△南町六八 小野信一郎氏次男重信  
△紺屋町三二 橋幸吉氏二女キキ子  
△二丁目五 石川友次郎氏長男榮一  
△仲町七〇 鹿島源兵衛氏二女喜久

死亡  
△三丁目二四 當時北海道札幌市猪狩賣治氏二女喜久子  
△三丁目三八 西牧幸太郎(六五)  
△北目町九 櫻村英則(二)

四倉漁夫が  
八十餘名結束  
酒代を要求  
公人私人  
募集  
不平受付